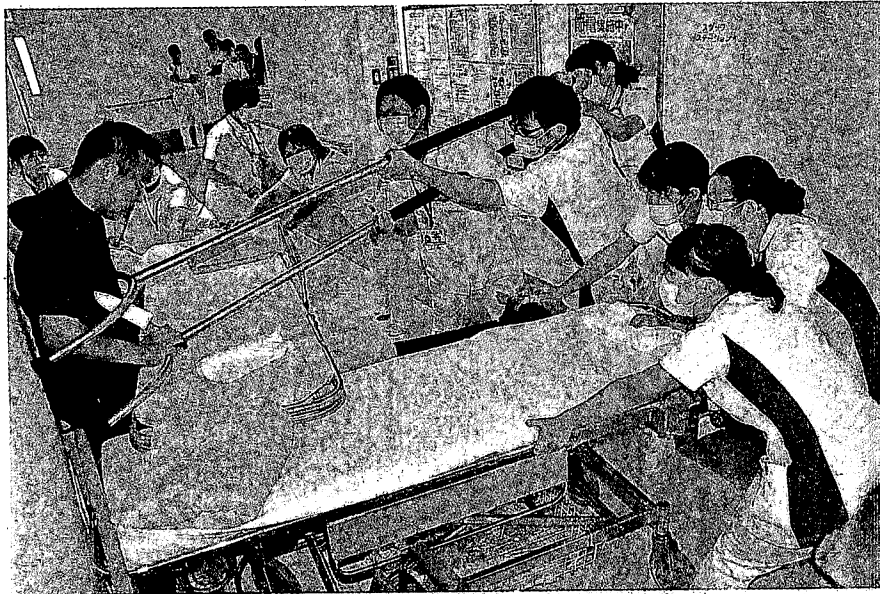


# 刃物を持った不審者に対応

## 和歌山病院(郷)で防犯訓練

美浜町和田、独立行政法人国立病院機構和歌山病院で9月29日、防犯訓練が行われ、病院関係者らが、刃



サスマタなどを使い、不審者を取り押さえる看護師ら

物を持った不審者への対応の仕方を確認するとともに、御坊署員から護身術なども学んだ。

病院職員約50人と、御坊署員7人が参加。想定は、刃物を持った不審者に扮する署員が病棟内いる。3階ナーステーション周辺をうろつく不審者を看護師が発見すると、非常通報装置を押し、県警本部通信指令室へ連絡。看護師らは、すぐにサスマタやベッド、車いすなどで応戦。できるだけ不審者から距離を取りながら、多方向から押さえ動けない状態に、不審者は「人を探している」と訴え、抵抗するも、看護師らは「落ち着いてください」と警察の到着を待った。通報から約7分後に御坊署員が到着し、動けなくなっている不

審者を逮捕した。

このあと、署員からサスマタの使い方や、護身術の講習などを受けた。

署員は「素晴らしい訓練だった。連携も取れていたし、ベッドや車いすなどを使ったのはよかった。刃物の届かない間合いも取れていた。患者はもちろんだが、自分の安全を確保してほしい。不審者が暴れない場合は、無理に押さえに行かず、話ながら説得してもいい」と講評した。

同病院の南方良章院長は「経験したことを生かして良かった点、悪かった点を反省してほしい。今後も訓練を重ね、病院全体で患者を守るよう、色々な技術を身につけたい」と話した。